

下記QRで「カムロ窯」のインスタ、ツイッターを見ることができます！

地域おこし協力隊通信

気づけば今年もあと半年となりました。年々時間の経過が早く感じられ、残り少ない協力隊の任期に焦る日々が続いています。さて、今回は最近の活動報告と今後のイベントについてお話ししたいと思います。今年のGWは2つのイベントを同時に行ないながら前森高原の観光施設として営業を行ない、充実した連休となりました。イベントでは、山形市にある山形クリエイティブセンター「Q」にてカムロ窯の作陶展を4月下旬から5月上旬まで開催しました。新聞社2社に記事として取り上げられ、沢山の方々にPRすることができました。



前森高原の「カムロ窯」です。たくさんの方々をお待ちいたしております。



Instagram



Twitter

カムロ窯を知ってもらうためにPR出来ました



こんにちは！
今月号は川和田です！

ました。幸いなことにGW期間中に「この展示を見て前森高原に来た」という方もおり、イベント出展や展示の大切さを改めて知る機会となりました。今後のイベントとしては、7月8日（土）には最上公園にて「MOGMOGマルシェ2023IN新庄」に体験メインで出店する予定です。また、7月9日（日）に鮭川村で行なわれる「きのこの森であいましょう」にて鮭川粘土を使った器を限定販売します。是非、足を運んで頂けると幸いです。

集 落 支 援 員 だ よ り

地域のお祭りと

集落支援員との関わり



向町地区
栗林 浩子 支援員



花火大会でのYoutube 配信の様子
実行委員：（左）大石紳一郎さん、（中央）岸美波さん

新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ数年町内のお祭りは中止や縮小開催を余儀なくされてきました。向町で開催されている「最上祭り」も令和元年の開催以降、翌2年は開催中止（愛宕神輿会による神輿渡御のみ実施）となりました。しかし、3年にはYouTubeでライブ配信を行い、自宅や遠方でも楽しめる花火大会を実施。4年は花火大会に加えてステージイベントも復活しました。

集落支援員として、神輿渡御のサポートやステージイベントの進行係、仮装行列への参加や審査員を務めさせていただいた事もありました。花火大会のYouTubeライブ配信が開始されてからは、実行委員さんや小学生MCと花火大会の実況をさせていただいております。

お祭りとは「神様に感謝する」とが本来の目的ではありますが、「最上祭り」は人と人を繋ぐための地域になくてはならない大切な文化だと思っています。昨年は新型コロナウイルスの影響を心配し開催には賛否両論があったのですが、今年こそ盛大に以前の様な賑やかな「最上祭り」になりまうように、全力でお手伝いさせていただきます。

非認知能力の向上を目指す「アート」とふれあう教育



体験を通して学ぶ

初夏を迎え、保育所・こども園に通う子どもたちは、外に出て活動する機会が増えてきました。これからの季節、特に欠かせないのが水遊びや泥んこ遊びです。また、春に子どもたちが植付した畑の野菜や、花壇の花なども、植物の日々の成長が見て取れるため、子どもたちは興味を持ちます。

今年 は都合により毎年行ってきた田植えはできませんでしたが、代わりに赤倉ゆけおり館前でさつま芋の植付や、堺田駅前の花苗の植付を行いました。子どもたちにとって、「遊び」は「学び」です。例えば先に挙げた花壇への植付の場面では、先生が「マリーゴールドの苗は一人5本植えます。サルビアも5本植えますので、苗箱から持っていくてください」と言っていて子どもたちに取らせるとき、これは立派な数の学びになります。

また、移植ベラで土を掘る活動は深さや高さの学びになり、園に帰って活動を振り返って感想を述べる活動は、考えや思いを言葉にする学びになります。

幼児教育への投資効果



堺田駅前で花苗の植付を行なう様子

1960年代にアメリカで行われた「ペリー就学前計画」という有名な研究報告があります。ある地域の3歳児の一部に高い質の教育を施し、そのグループがその後どのような成長を遂げたかを約40年にわたって追跡調査したものです。それによると知能指数（※1）は、はじめこそ幼児期に教育を受けた子どもが高かったようですが、10歳頃には差はなくなりました。一方、高校の中途退学と、将来的な年収等では大きな差があったことが報告されています。結果として、学

校での学力や、その後の社会生活での差は、知能指数ではなく、子どもの時代に養われる「困難に立ち向かう気持ち」や、「失敗してもあきらめない粘り強さ」、「自らが目標を定め、取り組む自主性」などの非認知能力（※2）が影響をおよぼしている」と結論づけています。

最上町でも、幼児期の非認知能力の育成を重視しており、全ての幼児に質の高い幼児教育・保育を提供できるようにカリキュラムや、施設の環境の充実に努めています。

（※1）知能指数IIテストなどで測れる学力。IQとも呼ばれている。

（※2）非認知能力II人格を形成するための内面的な能力EQとも呼ばれている。

アートとのふれあいを通して

6月7日に「アートヴィレッジ」がみシンポジウム」が中央公民館で開催され、「アート」の持つ力や、現代社会で生きていくために具体的にどうするべきかを討論し、方向性を確かめました。

最上町では令和3年度に「アートヴィレッジ構想推進

プロジェクト」を立ち上げ、子どもたちが「アート」にふれる体験等を大事にしながら、非認知能力を高める方策について検討してきました。

AI等の発達により、激しく変化する社会の中で、子どもたちには自ら課題をみつめ、学び、考え、判断して行動し、それぞれ思い描いた幸せを実現する「生きる力」が求められています。こうしたことから「アート」に秘められた、非認知能力がもたらす効果を、最上町の教育では少しずつ取り入れ始めています。



旧富沢、旧赤倉小学校には東北芸工大の卒業作品の数々が美術館のように展示されている

来月号では、中学校部活動の「地域移行」についての特集です！ご期待ください！